

高田 本山 だより

令和二年の報恩講では宝物館の特別展観はありません。
特別法要にむけて宝物館の改修がはじまっています。貴重な
宝物を災害から守り後世に伝えるためにも大事な事業です。
みなさまのご支援をお願い申し上げます。



120

特別法要事務局開設

弥陀のよび声

「なもあみだぶつ」



を聞いてゆこう

特別法要について

高田本山では来る令和五（二〇二三）年

五月二十一日～二十八日の八日間特別法要として

開山親鸞聖人御誕生八五〇年奉讃法会

立教開宗八〇〇年奉讃法会

中興真慧上人五〇〇年忌奉讃法会

聖徳太子一四〇〇年忌奉讃法会

以上の四法会を執り行います。

開山親鸞聖人は承安

三年四月一日（新暦

一一七三年五月二十一

日）に皇太后宮大進

日野有範の子として誕

生されました。令和五

年は御誕生から丁度

八百五十年となります。

また聖人が著わされた

顕浄土真実教行証文類

（教行証）の完成を見た

のは元仁元年（一二二四

年）とされ、その年を立

教開宗の年と定められま

した。以来令和六年には

八百年を迎えます。

高田派第十世真慧上人

は第九世定顕上人の子

としてお生まれになり、

下野国高田から北陸・近

畿方面を巡化され、殊に

伊勢路に於いて精力的に

化導し、親鸞聖人のみ教

えは次第に伊勢に広ま

り、寺院は続々と転宗し

て上人の許に参集しまし

た。そして一身田の地に

無量寿院を建立され、栃

木県本寺より一身田の地

に本山を移されました。

その後、寺号を専修寺と

改められました。こうし

て高田派興隆の基礎を築

かれました。その故に当

派では中興の祖として、

讃えております。永正九

年（一五一一）七十九歳

にて示寂されました。

聖徳太子は敏達三年

一月一日に用明天皇の

第二子として誕生され、

当時の最先端中国の文

物を進んで取り入れ、

仏教を日本に受け入れ

法隆寺、四天王寺等而建

立されました。また、親

鸞聖人は比叡山を降り

て、六角堂へ百日参籠さ

れた際、九十五日目に聖

徳太子の夢告に導かれ

WEB VERSION

WEB VERSION

て、法然上人の許を訪ね
他力念仏の教えに遇わ
れました。また聖人は
「皇太子聖徳奉讃」和讃

七十五首をつくられ、聖
徳太子を観音菩薩の化身
と仰がれ、「和国の教主」
と讃歎しておられます。

歴史を振り返ってみれ
ば、聖徳太子が日本に仏
教を受け入れ、親鸞聖人
がその中から浄土の教え
を弘められ、真慧上人が
その念仏の教えを三重県
の地に伝えられました。

このお三方の四法会を
令和五年に厳修し、その
教えに出遇えたことを皆
様と共に慶びたいと思ひ
ます。

また、特別法要の記念
事業として、一つには、
御法主殿の三十年に亘る
御研究の成果を、東方学
院での御講義、あるいは

毎夏本山で開かれており
ます仏教文化講座の御講
義を基として、その教え
を「善光寺と親鸞 日本
仏教史の諸相」としてま
とめられた御著書を春秋
社より発刊させて頂きま
した。

二つ目の記念事業とし
ては、宝物館の建設があ
ります。現在の宝物館は
昭和三十七年宗祖七〇〇
回大遠忌法要を記念して
建築されました。以来
五十七年が経過し、本体

の老朽化、換気設備、並
びに防火設備の不備等に
より法宝物の護持が困難
となってきたため、幾度
となく建て替えを検討し
てまいりました。その結
果、我々の御先祖が八百
年に亘り大切に受け継い
できた高田の法宝物を次
の世代に安全に受け継ぐ

ために、「見せる展示か
ら伝える展示」をコンセ
プトとして新宝物館の建
設を進めております。ご

懇志を上げていただいた
方のお名前を懇志簿に記
し、新宝物館に収め永く
顕彰したいと存じます。

また多額のご懇志を頂い
た方々はそのお名前を
宝物館の壁面に刻み、my-
homotukan (マイ宝物館)
として末代まで伝えてま
いります。

平成二十九年に両御堂
が国宝に指定されて以
来、境内は大勢の御参詣
の方々にお越しいただい
ておりますが、この賑わ
いを一過性のものでは無
く永續させねばなりませ
ん。四年後のこの特別法
要を本山・別院・御寺院
の皆様のご協力のもと教
団が一致団結して、盛大

に厳修し、念仏のみ教え
を若い世代に伝えていき
たいと思います。

(特別法要事務局

局長 押小路蓮円)



『善光寺と親鸞』(株) 春秋社刊
ISBN 978-4393-11240-3

WEB VERSION

WEB VERSION

令和はお七夜にお参りしよう

報恩講（お七夜）は毎年一月九日から十六日の七夜八日にかけて厳修されます。弥陀のよび声「なもあみだぶつ」を聞いてゆこうという気持ちで令和の報恩講を一緒に迎えたいしましょう。

日	10日	9日	
 8 因果親無 鈴鹿市法性寺 藤井徳雄	 3 因果親無 鈴鹿市法性寺 藤井徳雄		晨朝説教
 無分別 金森謙宏	 4 弥陀の地蔵のふたをれば 松阪市法性寺 奥田信海		日中説教
 迎えする 浦井宗司	 6 罪を知らされる 四日市市法福寺 丹後園	 1 お七夜のあかり 鈴鹿市法性寺 田中博彰	連夜説教
 同山 岡田了悟	 7 本願力にまかす 津市浄徳寺 中村宣雄	 2 あかるみ 津市浄徳寺 片藤弘道	初夜説教
 安部純海	 5 御上に生かされる 和歌山市崇賢寺 松田信康		大講堂説教

WEB VERSION

1月9日（木）

09:00 高田学苑参詣（御影堂）
10:00 高田幼稚園参詣（御影堂）
12:30 連夜勤行・説教①
16:30 初夜勤行・説教②

1月10日（金）

07:00 晨朝勤行・説教③
10:00 高田保育園参詣（御影堂）
10:30 日中勤行・説教④
11:00 お七夜坊守会（宗務院）※
12:30 大講堂説教⑤
14:00 お七夜坊守会参拝（御影堂）
14:00 連夜勤行・説教⑥
16:30 初夜勤行・説教⑦

1月11日（土）

07:00 晨朝勤行・説教⑧
10:30 日中勤行・説教⑨
11:00 お七夜高田派青年会（宗務院）※
12:30 大講堂説教⑩
14:00 連夜勤行・説教⑪
16:30 初夜勤行・説教⑫

1月12日（日）

07:00 晨朝勤行・説教⑬
10:30 日中勤行・説教⑭
12:00 お七夜婦人連合会（御影堂）
12:30 大講堂説教⑮
13:00 お七夜子ども大会（宗務院）
献書発表式
14:00 連夜勤行・説教⑯
16:30 初夜勤行・説教⑰

1月13日（月・祝）

07:00 晨朝勤行・説教⑱
09:00 如来堂特別講演（如来堂）⑱
10:30 日中勤行・説教⑲
10:30 お七夜新成人の集い（受付宗務院）
11:45 責任役員会（御影堂）
12:30 大講堂説教⑳
14:00 連夜勤行・説教㉑
16:30 初夜勤行・説教㉒

1月14日（火）

07:00 晨朝勤行・説教㉓
09:00 如来堂特別講演（如来堂）㉓
10:00 他山御焼香（御影堂）
10:30 日中勤行・説教㉔
12:30 大講堂説教㉕
14:00 連夜勤行・説教㉖
16:30 初夜勤行・説教㉗

1月15日（水）

07:00 晨朝勤行・説教㉘
10:00 高田短期大学参詣（御影堂）
10:30 日中勤行・御観教・覆演㉘
12:30 大講堂説教㉙
12:30 国宝御影堂特別拝観（御影堂）
14:00 連夜勤行・説教㉚
16:30 初夜勤行・説教㉛
16:30 お七夜婦人連合会初夜参詣
19:00 白塔通夜講（ししこ念仏）
20:30 通夜念仏
23:00 後夜

1月16日（木）

07:00 晨朝勤行・説教㉜
09:00 御参詣
10:30 日中勤行・説教㉝
12:30 大講堂説教㉞

※印の行事については見学できません。

16 日	15 日	14 日	13 日	12 日	11 日
報恩講を迎えて 35 津市品勝寺 長谷部行雄	智慧の眼差し 社会を生きて 30 津市延寿寺 藤田正知	夢を見て、こんなこと 24 津市正徳寺 水沼智希	まらかい心とゆるい心 18 岡崎市妙見寺 安藤孝仁	外儀のすがた 13 津市東照寺 生榮光等	報恩と 四日市市立
生きる依りどころ 36 鈴鹿市真念寺 貞昌智海	御親教 法主殿	てあい一生抜く力 26 鈴鹿市正念寺 梅林久美	濁世の目足 20 鈴鹿市真念寺 田中明誠	摩訶般若の山と成る 14 岡崎市浄光寺 戸田恵信	阿弥陀様 9 大野市吉福寺
生かされている幸せ 33 津市浄福寺 鈴木紀生	転じる智慧をいただく 28 岡崎市東照寺 松山光雄	大人になりたい 22 津市正太寺 大河戸悟通	弥陀の悲願の輪のみぞ 16 鈴鹿市瑞雲寺 松山智通	報恩講をお 11 鈴鹿市深蔵寺	
寿ありて命あり 34 津市延寿寺 梅林亮英	法華のラニヤメカクシ 29 津市吉林寺 千代田昭	弥陀の悲願の輪のみぞ 23 鈴鹿市法林寺 生榮秀教	本願成就すれば 17 津市深蔵寺 若林妙白	関東の 12 津市真念寺	
つぎへ 37 鈴鹿市安楽寺 安田良典	聖人の語った自らの行末 32 津市慈光寺 藤山雅哉	人間の願いと時代 27 松阪市明照寺 藤澤義純	報の浄土の往生 21 大原市聖賢寺 三義厚	いろいろ 15 鈴鹿市雲雲寺 貞澤美法	徳利 10 岡崎市法林寺

御親教復演



31

四日市市賢元寺 津原廣海

如来堂特別講演



25

岡崎市聖賢寺 松義忠

如来堂特別講演



19

津市報恩寺 宮川賢史

1月9日～16日

お七夜献書展

(大玄閣～御影堂廊下)

保育園・幼稚園児の

「ののさま作品展」(御対面所)

安楽庵見学

(受付茶所 10時/13時)

注: 9日は13時のみ

16日は10時のみ

教団連合「真宗十派報恩講巡り」

スタンプラリー

(境内テント)

1月9日～15日

生花展

(山内休憩所)

1月12日・13日

三重若手僧侶の会

「お七夜子ども広場」

(境内テント)



スタンプラリー



如来堂特別講演



お七夜子ども大会



新成人のつどい

「周利槃特」

釈尊シリーズ⑬

周利槃特（しゅりはんどく）（チュウラ・パンダカ）は物覚えが悪く、自分の名前すら覚えられないほどで人々から愚者といわれ孤独な生活を送っていました。

先に出家して佛弟子となっていた兄、摩訶槃陀迦が、そんな周利槃特を心配して出家させ、自分が佛門に帰してから聞き学んだ釈尊の教えを偈文にし、覚えるように命じました。

しかし、その偈文も覚えることができず、兄からも突き放され、我が身の愚かさを悲しむ周利槃特の姿をたらんになった釈尊が、優しく声をかけられました。

そして、「自分の愚か

さを知る者こそ、智慧ある者です。自分の愚かさに目を向けず自分が賢いと思う者こそ、愚かな者なのです」と周利槃特を元気づけられたのでした。

それから、釈尊は、周利槃特に一本の箒を授け「塵を払わん、垢を除かん。と掃除しながら唱えなさい」と教えられました。

周利槃特は釈尊の教えのとおりに来る日も来る日も「塵を払わん、垢を除かん」という言葉を唱え続けながら掃除をしました。やがて、毎日掃除をしてもすぐ積もってしまいう払うべき塵、除くべき垢とは何だろうかとい

つしか考えるようになりしました。

そしてついに、払うべき塵、除くべき垢とは自分の貪りの心、瞋りの心、真理にくだらない心であることを自覚し、さとりをひらいたのです。

私たちは常に自分と他人を比較して「賢い私」になろうと必死になり、そのために自分を見失ってしまい何が本当の「賢さ」であり、「愚かさ」であるのか気づかないまま毎日を過ごしているのではないのでしょうか。



周利槃特は賢くなつてさとられたではありません。いよいよ教えに聞きおしていく愚者に徹底されたのです。

教えとは、物知りになるために聞くものでも、生活に役立てるために聞くものでもありません。頭で聞くものではなく身がうなずくものだと思われています。

教えに常に我が身を聞きなおしていくということとを周利槃特の逸話から教えられてくるのです。

（教学院第三部会）

清掃奉仕ありがとう

ございます

（敬称略・奉仕日順）

九月 大誓寺・永福寺・

常蓮寺・正福寺

十月 称名寺・萬徳寺・

西方寺・寶積寺・青巖寺

十一月 ふれあい長寿

会・信行寺・常照寺・真

性寺・西方寺・西福寺

本山の清掃奉仕で汗を流しませんか。お寺以外の団体の方でもご奉仕いただけます。

お申し込み、お問い合わせは宗務院庶務部（電話 059・232・4171）までお願いします。



親鸞聖人ご旧跡を訪ねて

第 14 回 居多ヶ浜周辺の御足跡

越後流罪での最初の地として居多ヶ浜^{こたがはま}が知られています。親不知子不知の難所を海路で越えこの地に上陸したと伝えられています。

この時、居多神社に参詣し、
 する遠く法を守らせ居多の神 弥陀と衆生のあらん限りは と、歌を詠み祈願したと伝えられています。すると、一夜にして葦が片葉になったとも言われています。また、こちらの神社には聖人が書かれたといわれる日の丸の御名号も伝わっています。
 また、このそばにある竹之内^{たけのうち}草庵が最初の配所といわれ、国分寺本堂のすぐ隣に建っています。聖人自ら刻まれた御自刻の御真影が今も安置されています。この周囲にはその生活のあとともいえる養翁^{ようおう}清水や御自刻御真影を作る時にご自身のお姿を写した鏡が池^{かがいけ}があり往時を偲^{おも}べれます。

その後、竹之前^{たけのへ}草庵に移り住んだそうです。ここには袈裟かけの松がありましたが、現在は枯れてしまい、二代目のものになっています。また、こちらも生活を感じさせる柳の清水の遺構がそばに残っています。

これらのエリアへは直江津駅よりバスで居多が浜・五智国分寺裏門・五智国分寺表門・国府別院前バス停の利用が便利です。

(山川 蓮生)



十一月十五日～十六日

本寺報恩講

本山での報恩講に先立ち、栃木にある本寺専修寺では旧暦の親鸞聖人のご命日の前に報恩講が厳修されます。法主殿はじめ内局も揃っておつとめし、無事に終了いたしました。

また、各別院にても順次報恩講がつとまっています。



WEB VERSION

WEB VERSION

こんな行事がありました

九月五日 法話発表会

皆さまに仏様のお話を

伝える練習をする発表会

です。

九月十二日 総代会

本山も皆さまのお寺と

同じように総代会が開か

れています。

九月二十日 仏教保育合同参拝

県内の仏教幼稚園・保

育園のこどもたちが参拝

しました。(表紙写真)

九月二十日～二十六日 讃仏会

十月一日～三日 資堂講法会

十月二十三日 檀信徒研修会

「お浄土」をテーマに

今回の研修会は開催され

八十名ほどの参加をいた

だきました。

十月二十五日～二十七日

堯真上人四〇〇年忌法会

定専上人六五〇年忌法会

歴代上人の御年忌が厳

かにつとまりました。

十月二十八日～二十九日

坊守・婦人会合同研修会

一日目の研修旅行には

バス三台、百名を超える

参加者で賑やかに研鑽を

つみました。

十月三十一日

教学院研究発表大会

十一月三日～四日

納骨堂法会

お天気にも恵まれ大勢

の参詣で賑わいました。

十一月五日～十日秋法会

十一月十八日紅葉堂法会



十一月二十九日には日本赤十字社を通じて被災者の方々へ百万円を台風十九号災害の義捐金としてお届けいたしました。

納骨堂法会



坊守・婦人会
合同研修会旅行



法話発表会



●行事案内

一月一日～三日

修正会

一月九日～十六日

報恩講(お七夜)

詳細は4～5ページ

三月十七日～二十三日

讃仏会

三月二十三日～四月七日

写生大会

三月三十日～四月一日

中学生教化合宿



十二月三十一日

除夜の鐘を護持会の皆様を中心となり今年も撞きます。テレビ中継も入る予定です。国宝の御堂に響く鐘の音と共に新年を迎えましょう。

高田本山



三重県津市一身田町

2819

真宗高田派本山専修寺

寺院名

WEB VERSION